

一般社団法人 日本応用数理学会

2023（令和 5）年度定時社員総会

日時：2023（令和 5）年 6 月 23 日（金）16:00 ～ 17:30

会場：国際文献社アカデミーセンター会議室（東京都新宿区山吹町）およびオンライン

議事：

- 第 1 号議案
2022（令和 4）年度事業報告の件 [1～4 頁]
- 第 2 号議案
2022（令和 4）年度決算の件 [5 頁～15 頁]
2022（令和 4）年度監査報告の件 [16 頁～18 頁]
- 第 3 号議案 役員選任の件
（報告事項：選挙結果，任期満了）
理事候補者
石田祥子、磯島伸、倉橋貴彦、関川浩、曾我部知広、尊田嘉之、
奈良高明、野津裕史、速水謙、宮路智行、山本有作
監事候補者
石渡恵美子
- 第 4 号議案
2023（令和 5）年度事業計画の件[19 頁]
- 第 5 号議案
2023（令和 5）年度予算の件 [20 頁～22 頁]

終了後：

新フェロー任命式

2022 年度業績賞報告

2022 年度年会若手優秀講演賞表彰式

第 19 回研究部会連合発表会優秀講演賞表彰式

以上

2023 年 5 月 26 日 理事会
(2023 年 6 月 23 日 修正)

一般社団法人日本応用数学会 2022 (令和 4) 年度事業報告

本学会は 2022 (令和 4) 年度 (2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで) 下記のとおり事業を行った。

1. 学会誌「応用数理」の刊行

32 巻 2 号 (6 月)、3 号 (9 月)、4 号 (12 月)、33 巻 1 号 (3 月) の 4 号を発刊した。

32 巻 (1~4 号) の総頁数 245 頁 [208]

33 巻 1 号から、各記事の執筆者に原稿料の支払いを開始した。

2. JSIAM Online Magazine の編集・公開

3. 論文誌「日本応用数学会論文誌」の刊行

32 巻 2 号 (6 月)、3 号 (9 月)、4 号 (12 月)、33 巻 1 号 (3 月) の 4 号を電子版として J-Stage で公開した。

32 巻 (1~4 号) の総頁数 154 頁 [287]

4. Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics の編集 (年 3 回発刊)

5. JSIAM Letters (電子英文速報誌) の刊行

Volume 14 (39 篇)、Volume 15 (8 篇) を J-Stage で公開した。

2022 年度より、編集業務の一部を国際文献社に委託した。

6. 出版

シリーズ応用数理の続巻の企画を検討した。

7. 年会の開催

2022 年 9 月 8 日~10 日にオンライン形式 (実行委員会: 北海道大学) で第 32 回年会を開催し、637 名[575]の参加を得て盛会裡に終了した。北海道大学にサテライト会場を設置して、対面での参加も可能とした。(総合講演 2 件[2]、オーガナイズドセッションおよび一般講演 339 件[289]、ポスター発表 16 [14]、計 355 件[305])

8. 研究部会の育成促進 (次頁の研究部会一覧を参照)

(ア) 今年度は 23 研究部会の活動推進が行われた。

(イ) 2023 年 3 月 8 日~10 日にハイブリッド形式 (実行委員会: 岡山理科大学、環瀬戸内応用数理研究部会) で研究部会連合発表会を開催し、474 名[394]の参加を得て盛会裡に終了した。講演数増加に対応するため、従来 2 日だった会期を、3 日に延長した。(講演 199 件[169])

9. 各種委員会活動の推進

国際活動委員会、ネットワーク委員会、総務委員会等の諸活動が精力的に進められた。

10. 海外の応用数理学会との交流

(ア) ICIAM2023 の開催の準備活動を進めている。

(イ) International Council for Industrial and Applied Mathematics(ICIAM)のメンバー学会である。特に、ICIAM の公式ウェブサイト <https://iciam.org/> を運用している。

(ウ) オーストラリア数学会(AustMS)、 SIAM とは相互協定を締結している。

11. 他学会等との交流

(ア) 日本数学会、統計関連学会連合とは懇談会を開催し、様々な活動で連携している。

また、数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会を共同で開催している。

(イ) 日本数学会へは社会連携協議会へ委員を派遣している。

(ウ) 日本シミュレーション学会、日本計算工学会とは密接な情報交換を行った。

(エ) 横断型基幹科学技術研究団体連合、学術会議計算力学小委員会、日本計算力学連合(JACM)、HPCI コンソーシアム、男女共同参画協会連絡会、理論応用力学コンソーシアムのメンバー学会である。

(オ) 日本学術会議 公開シンポジウム「数理科学の展望—国際的展開と諸科学・産業との連携拡大を探る」(2023年3月14日、日本学術会議講堂)で、日本応用数理学会の活動と今後の展望について紹介した。

12. 会員・賛助会員の現状(2023年3月31日現在)

会員数は1,437名[1,413]になった。

(入会107名(正50、学57)、退会83名(正57、学26)(退会は、会員資格喪失者を含む))

賛助会員は22社[24] 41口[43]となった。(退会2)

個人賛助会員は、1名[1]である。

名誉会員は13名[15]となった。

13. 表彰

(ア) 論文賞(論文誌、JSIAM Letters、JJIAM)5件[6]を表彰した。

(イ) ベストオーサー賞(学会誌)2件[2]を表彰した。

(ウ) 年会若手優秀講演賞5件[9]を表彰した。

(エ) 年会優秀ポスター賞2件[2]を表彰した。

(オ) 研究部会連合発表会優秀講演賞3件[4]を表彰した。

(カ) 第16期フェロー4名を任命した。

(キ) 業績賞理論分野0件[1]、応用分野1件[0]を選考した。

14. 若手層・女性研究者との連携強化

男女共同参画学協会連絡会女子中高生理系選択支援ワーキンググループによる「女子中高生夏の学校」がオンライン開催され、実行委員長および実験開催・ポスター展示・キャリア相談担当として理事および元理事が参加した。

15. 産業界・社会との交流促進

応用数理ものづくり研究会技術セミナー（第9期12回講演、懇談会1回を含む）を開催し16社[15]の参加を得た。

16. 協賛等

外部学協会等と41件[38]の協力関係を結んだ。

17. 数理科学振興の政策課題の検討

日本学術会議が公募した「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」へ、「数理科学と社会科学に基づいた分野横断的な先進的自然災害予測・評価による防災・復興の実現と国際社会への発信」というタイトルの計画で応じた。

18. その他

稲盛財団からの寄附金により、国際的に活動する女性研究者を支援するために、稲盛財団基金積立金を設立し運用している。

「日本応用数理学会」（登録番号2472655）の商標登録を延長した（2032年10月30日まで）。理事会の開催されない月に理事連絡会を開催した。

備考：[]は、2021年度実績

日本応用数理学会 研究部会一覧

「ウェーブレット」研究部会

「応用カオス」研究部会

「応用可積分系」研究部会

「折紙工学」研究部会

「科学技術計算と数値解析」研究部会

「機械学習」研究部会

「行列・固有値問題の解法とその応用」研究部会

「計算の品質」研究部会

「産業における応用数理」研究部会

「数理医学」研究部会

「数理政治学」研究部会

「数理設計」研究部会

「数理的技法による情報セキュリティ」研究部会

「数理ファイナンス」研究部会
「数論アルゴリズムとその応用」研究部会
「CAEモデリングとデータ活用」研究部会
「離散システム」研究部会
「連続体力学の数理」研究部会
「若手の会」研究部会
「環瀬戸内応用数理」研究部会（地域研究部会）
「幾何学的形状生成」研究部会
「位相的データ解析」研究部会
「連続最適化」研究部会

以上

貸借対照表

2023年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	29,107,320	27,581,178	1,526,142
未収金	3,575,500	2,845,500	730,000
流動資産合計	32,682,820	30,426,678	2,256,142
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
固定資産合計	20,000,000	20,000,000	0
資産合計	52,682,820	50,426,678	2,256,142
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	118,590	281,137	△ 162,547
前受会費	7,597,000	7,396,500	200,500
預り金	0	4,492	△ 4,492
未払法人税等	70,000	69,900	100
流動負債合計	7,785,590	7,752,029	33,561
負債合計	7,785,590	7,752,029	33,561
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	44,897,230	42,674,649	2,222,581
正味財産合計	44,897,230	42,674,649	2,222,581
負債及び正味財産合計	52,682,820	50,426,678	2,256,142

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	82,000	92,000	△ 10,000
正会員	44,000	48,000	△ 4,000
学生会員	38,000	44,000	△ 6,000
受取会費	18,075,250	19,539,250	△ 1,464,000
正会員	15,287,750	16,489,250	△ 1,201,500
学生会員	725,000	687,500	37,500
賛助会員	2,062,500	2,362,500	△ 300,000
事業収益	6,192,008	4,903,111	1,288,897
応用数理編集料	0	165,000	△ 165,000
応用数理広告料	75,000	0	75,000
応用数理定期購読料	259,545	0	259,545
論文誌掲載料	200,000	520,000	△ 320,000
年会収益	2,784,000	2,451,000	333,000
セミナー収益	505,000	535,000	△ 30,000
研究部会収益	1,637,000	598,000	1,039,000
著作権料収益	731,463	634,111	97,352
雑収益	16,154	4,808	11,346
経常収益計	24,365,412	24,539,169	△ 173,757
(2) 経常費用			
事業費	11,333,378	7,250,336	4,083,042
応用数理刊行事業費	4,586,751	1,365,493	3,221,258
委託費	2,180,640	775,860	1,404,780
印刷製本費	2,298,153	589,633	1,708,520
諸謝金	107,958	0	107,958
論文誌刊行事業費	335,727	367,776	△ 32,049
委託費	335,727	367,776	△ 32,049
JSIAM-Letters刊行事業費	584,980	51,700	533,280
委託費	584,980	51,700	533,280
JSIAMOnlineMagazine刊行事業費	303,558	0	303,558
年会事業費	3,137,345	3,761,248	△ 623,903
人件費	34,000	0	34,000
委託費	2,262,373	3,581,834	△ 1,319,461
会議費	7,640	52,626	△ 44,986
通信運搬費	2,120	3,250	△ 1,130
賃借料	694,250	0	694,250
雑費	136,962	123,538	13,424
セミナー事業費	193,014	165,316	27,698
会議費	76,076	11,672	64,404
諸謝金	116,938	153,644	△ 36,706
研究部会事業費	2,192,003	1,538,803	653,200
人件費	334,400	0	334,400
委託費	1,414,037	1,292,246	121,791
旅費交通費	26,550	0	26,550
通信運搬費	179,213	0	179,213
諸謝金	102,774	216,857	△ 114,083
雑費	135,029	29,700	105,329

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	10,809,453	13,308,665	△ 2,499,212
応用数理購入費	0	4,519,592	△ 4,519,592
JJIAM購入費	237,600	237,600	0
活動促進費	56,020	26,020	30,000
関連団体等会費	178,332	164,343	13,989
保守費	1,288,844	1,034,763	254,081
事務委託費	7,874,878	5,468,688	2,406,190
委託費	3,890,258	4,246,430	△ 356,172
印刷製本費	45,749	194,962	△ 149,213
通信運搬費	729,847	1,002,303	△ 272,456
消耗品費	29,034	24,993	4,041
HP関係費	3,179,990	0	3,179,990
会議費	223,219	100,647	122,572
雑費	740,200	0	740,200
事務局運営費	0	1,466,388	△ 1,466,388
通信運搬費	0	85,633	△ 85,633
コピー機リース料金	0	264,052	△ 264,052
消耗品費	0	3,882	△ 3,882
賃借料	0	579,920	△ 579,920
雑費	0	532,901	△ 532,901
法人関連経費	210,360	290,624	△ 80,264
経常費用計	22,142,831	20,559,001	1,583,830
評価損益等調整前当期経常増減額	2,222,581	3,980,168	△ 1,757,587
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,222,581	3,980,168	△ 1,757,587
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,222,581	3,980,168	△ 1,757,587
一般正味財産期首残高	42,674,649	38,694,481	3,980,168
一般正味財産期末残高	44,897,230	42,674,649	2,222,581
Ⅱ 正味財産期末残高	44,897,230	42,674,649	2,222,581

予算対比正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	50,000	82,000	△ 32,000
正会員	50,000	44,000	6,000
学生会員	0	38,000	△ 38,000
受取会費	18,925,250	18,075,250	850,000
正会員	16,131,250	15,287,750	843,500
学生会員	594,000	725,000	△ 131,000
賛助会員	2,200,000	2,062,500	137,500
事業収益	4,620,000	6,192,008	△ 1,572,008
応用数理広告料	0	75,000	△ 75,000
応用数理定期購読料	240,000	259,545	△ 19,545
論文誌掲載料	480,000	200,000	280,000
年会収益	2,500,000	2,784,000	△ 284,000
セミナー収益	600,000	505,000	95,000
研究部会収益	500,000	1,637,000	△ 1,137,000
著作権料収益	300,000	731,463	△ 431,463
雑収益	1,000	16,154	△ 15,154
経常収益計	23,596,250	24,365,412	△ 769,162
(2) 経常費用			
事業費	10,025,000	11,333,378	△ 1,308,378
応用数理刊行事業費	4,635,000	4,586,751	48,249
委託費	2,300,000	2,180,640	119,360
会議費	35,000	0	35,000
印刷製本費	2,300,000	2,298,153	1,847
諸謝金	0	107,958	△ 107,958
論文誌刊行事業費	380,000	335,727	44,273
委託費	360,000	335,727	24,273
会議費	20,000	0	20,000
JSIAM-Letters刊行事業費	110,000	584,980	△ 474,980
委託費	50,000	584,980	△ 534,980
会議費	60,000	0	60,000
JSIAMOnlineMagazine刊行事業費	0	303,558	△ 303,558
年会事業費	3,100,000	3,137,345	△ 37,345
人件費	3,100,000	34,000	3,066,000
委託費	0	2,262,373	△ 2,262,373
会議費	0	7,640	△ 7,640
通信運搬費	0	2,120	△ 2,120
賃借料	0	694,250	△ 694,250
雑費	0	136,962	△ 136,962
セミナー事業費	500,000	193,014	306,986
会議費	500,000	76,076	423,924
諸謝金	0	116,938	△ 116,938
研究部会事業費	1,300,000	2,192,003	△ 892,003
人件費	1,300,000	334,400	965,600
委託費	0	1,414,037	△ 1,414,037
旅費交通費	0	26,550	△ 26,550
通信運搬費	0	179,213	△ 179,213

予算対比正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
諸謝金	0	102,774	△ 102,774
雑費	0	135,029	△ 135,029
管理費	10,264,000	10,809,453	△ 545,453
JJIAM購入費	300,000	237,600	62,400
活動促進費	100,000	56,020	43,980
関連団体等会費	150,000	178,332	△ 28,332
保守費	1,000,000	1,288,844	△ 288,844
事務委託費	7,964,000	7,874,878	89,122
委託費	4,220,000	3,890,258	329,742
印刷製本費	200,000	45,749	154,251
通信運搬費	1,030,000	729,847	300,153
消耗品費	50,000	29,034	20,966
HP関係費	2,464,000	3,179,990	△ 715,990
会議費	200,000	223,219	△ 23,219
雑費	250,000	740,200	△ 490,200
法人関連経費	300,000	210,360	89,640
経常費用計	20,289,000	22,142,831	△ 1,853,831
評価損益等調整前当期経常増減額	3,307,250	2,222,581	1,084,669
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,307,250	2,222,581	1,084,669
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,307,250	2,222,581	1,084,669
一般正味財産期首残高	42,674,649	42,674,649	0
一般正味財産期末残高	45,981,899	44,897,230	1,084,669
Ⅱ 正味財産期末残高	45,981,899	44,897,230	1,084,669

財産目録

2023年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金現金	普通預金	運転資金として	24,589,046
		みずほ銀行根津支店(普)／1140839		12,521,960
		みずほ銀行麹町支店(普)／1282010		11,645,584
		三菱UFJ銀行(普)／0424593		239,688
		三井住友銀行(普)／2969442		181,814
	未収金	郵便振替	運転資金として	4,518,274
		会費用		4,518,274
				3,575,500
		会費収入(クレジット決済分)		2,090,000
		ものづくり研究会参加費		60,000
	研究部会参加費(クレジット決済分)		1,425,500	
流動資産合計				32,682,820
(固定資産) 基本財産	基本財産			
		三菱UFJ銀行(定)／0036919		20,000,000
				10,000,000
		三井住友銀行(定)／00692621		10,000,000
固定資産合計				20,000,000
資産合計				52,682,820
(流動負債)	未払金	Google、Amazon等	システム月額使用料(クレジット決済分)	118,590
			学会誌原稿料	103,590
	前受会費	正会員 正会員(シニア) 学生会員 賛助会員(法人) 新宿区都税事務所	翌事業年度以降会費	15,000
				7,597,000
				6,522,500
				606,500
				268,000
				200,000
	未払法人税等		2022年度都民税均等割	70,000
	流動負債合計			
負債合計				7,785,590
正味財産				44,897,230

貸借対照表

2023年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会

国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
前払金	0	1,100,000	△ 1,100,000
流動資産合計	0	1,100,000	△ 1,100,000
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
特定資産	17,004,953	10,754,833	6,250,120
特定資産合計	17,004,953	10,754,833	6,250,120
固定資産合計	17,004,953	10,754,833	6,250,120
資産合計	17,004,953	11,854,833	5,150,120
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	9,505,000	0	9,505,000
流動負債合計	9,505,000	0	9,505,000
負債合計	9,505,000	0	9,505,000
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	7,499,953	11,854,833	△ 4,354,880
正味財産合計	7,499,953	11,854,833	△ 4,354,880
負債及び正味財産合計	17,004,953	11,854,833	5,150,120

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
雑収益	88	100	△ 12
経常収益計	88	100	△ 12
(2) 経常費用			
事業費			
国際交流事業費	4,354,968	880	4,354,088
経常費用計	4,354,968	880	4,354,088
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,354,880	△ 780	△ 4,354,100
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,354,880	△ 780	△ 4,354,100
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,354,880	△ 780	△ 4,354,100
一般正味財産期首残高	11,854,833	11,855,613	△ 780
一般正味財産期末残高	7,499,953	11,854,833	△ 4,354,880
II 正味財産期末残高	7,499,953	11,854,833	△ 4,354,880

予算対比正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会
国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
雑収益	100	88	12
経常収益計	100	88	12
(2) 経常費用			
事業費			
国際交流事業費	5,601,000	4,354,968	1,246,032
経常費用計	5,601,000	4,354,968	1,246,032
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,600,900	△ 4,354,880	△ 1,246,020
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,600,900	△ 4,354,880	△ 1,246,020
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 5,600,900	△ 4,354,880	△ 1,246,020
一般正味財産期首残高	11,854,833	11,854,833	0
一般正味財産期末残高	6,253,933	7,499,953	△ 1,246,020
II 正味財産期末残高	6,253,933	7,499,953	△ 1,246,020

財産目録

2023年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会
国際交流事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(固定資産) 特定資産	特定資産	国際交流事業運営資金として	17,004,953
	みずほ銀行(普)／3000023		17,004,953
固定資産合計			17,004,953
資産合計			17,004,953
(流動負債)	前受金	ICIAM2023前受参加費	9,505,000
			9,505,000
流動負債合計			9,505,000
負債合計			9,505,000
正味財産			7,499,953

貸借対照表

2023年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会

稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
特定資産	3,000,613	3,000,562	51
特定資産合計	3,000,613	3,000,562	51
固定資産合計	3,000,613	3,000,562	51
資産合計	3,000,613	3,000,562	51
II 正味財産の部			
1. 一般正味財産	3,000,613	3,000,562	51
正味財産合計	3,000,613	3,000,562	51
負債及び正味財産合計	3,000,613	3,000,562	51

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
雑収益	51	51	0
経常収益計	51	51	0
(2) 経常費用			
経常費用計	0	0	0
評価損益等調整前当期経常増減額	51	51	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	51	51	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	51	51	0
一般正味財産期首残高	3,000,562	3,000,511	51
一般正味財産期末残高	3,000,613	3,000,562	51
II 正味財産期末残高	3,000,613	3,000,562	51

予算対比正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
雑収益	300	51	249
経常収益計	300	51	249
(2) 経常費用			
経常費用計	0	0	0
評価損益等調整前当期経常増減額	300	51	249
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	300	51	249
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	300	51	249
一般正味財産期首残高	3,000,562	3,000,562	0
一般正味財産期末残高	3,000,862	3,000,613	249
II 正味財産期末残高	3,000,862	3,000,613	249

財産目録

2023年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会

稲盛財団基金会計

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(固定資産) 特定資産	特定資産	稲盛財団基金運営資金として	3,000,613
	三菱UFJ銀行(定)／0081087		3,000,000
	三菱UFJ銀行(普)／0860997		613
固定資産合計			3,000,613
資産合計			3,000,613
正味財産			3,000,613

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

2. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次の通りである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金	おかやま観光 コンベンション協会	0	150,000	150,000	0	－
合計		0	150,000	150,000	0	

附属明細書

1. 該当事項なし

一般社団法人 日本応用数理学会
代表理事 秋葉 博様

2022(令和4)年度 税務監査報告書

2022(令和4)年度の会計につき税務監査の結果を以下の通りご報告いたします。

年 度：第11期、自2022(令和4)年4月1日 至2023(令和5)年3月31日

実施日：2023(令和5)年4月17日(月)

方 法及び確認事項：

原始資料との突合、預貯金残高の検証、帳表類の保管状況の確認、総勘定元帳と決算書の残高の照合、源泉所得税の徴収・納税状況の確認及び資産負債の細目及び内訳の確認など

結 果：領収書や請求書などの原始資料が月別かつ日毎に整理され、日々の金銭による収支は複式簿記により適切に処理されています。

預貯金残高は通帳の金額と合致しており、報酬及び人件費の源泉所得税の徴収及び納付状況も適正です。また、2021年度の法人住民税の納付がされていることを確認し、2022年度の法人住民税が2022年度において未払計上されていることを確認いたしました。

所 見：

1. 当期の特徴

前期と比較した際の当期の会費収入の減少については、前期において過年度分の会費の回収が進んだことが影響しております。また事業収益については、研究部会収益が増加していることが影響し、前期と比較して約128万円増加しております。経常費用については前期と比較し、役158万円ほど増加しておりますが、主な要因としてはHP関連費が今期で3,179,990円計上されていることが影響しております。

また、予算との実績との比較については事業収益が予算と比較し増額となっております。当期の事業費は予算に対して委託費の費用が増加しておりますが、HPのリニューアル費用が追加で発生したことなどから予算と比較し約180万円増加しております。結果、正味財産の増加は約222万円となっております。

国際交流事業会計については、ICIAM2023の参加費については前受金処理されており、金額としては約950万円となります。経常費については査読システム等の計上があったことにより決算額で約435万円のマイナスとなっておりますが、予算では約560万円のマイナスでした。

2. 法人税の申告

収益事業がある場合は、収益事業の収支について法人税・地方法人税・地方税の申告をする必要があります。学術団体の場合、企業展示や非会員への論文集販売などが該当します。また、年間の収入金額が8,000万円を超える場合は一定の計算書類を提出する必要があります。

3. 消費税インボイス制度(適格請求書発行事業者の登録)

令和5年10月から消費税インボイス制度が導入されます。免税事業者(基準期間の課税売上高が1,000万円に満たない事業者)という扱いがインボイス制度の導入によって廃止されるわけではありませんが、適格請求書発行事業者に登録すると課税売上高の金額の多寡にかかわらず消費税の課税事業者となります。既にお渡ししてある消費税インボイス制度の概要をご確認の頂けますと幸いです。

2023(令和5)年5月17日(水)
東京都千代田区神田小川町3丁目26番8号6F
AtaGO税理士法人
担当 税理士 飯塚 哲行
TEL03-6803-3931



原本は総会当日に共有画面でお見せします

監 査 報 告

2023 年 5 月 17 日

一般社団法人日本応用数理学会

会長 秋葉 博 殿

一般社団法人日本応用数理学会

監事 内山 成憲

矢野 良輔

私たちは、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの会計年度における監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、収支状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告の内容は正しく示しているものと認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または定款により指摘すべき事項はないと認める。

以上

2023 年 5 月 26 日 理事会

一般社団法人 日本応用数理学会 2023（令和 5）年度事業計画（案）

本学会は 2023（令和 5）年度（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）下記のとおり事業を行う予定である。

1. 会誌「応用数理」の刊行（6 月，9 月，12 月，3 月）
2. JSIAM Online Magazine の編集・公開
3. 電子版「日本応用数理学会論文誌」の刊行（6 月，9 月，12 月，3 月）
4. Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics の編集
5. JSIAM Letters（電子英文速報誌）の刊行
6. 出版
 - ・シリーズ・応用数理 出版準備
7. 年会の開催
 - ・今年度は ICIAM2023 を東京で開催するため、年会は開催しない
8. 研究部会の育成促進
 - ・研究部会連合発表会（長岡技術科学大学）の開催
9. 各種委員会活動の推進
10. 国際活動
 - ・ICIAM2023 の開催
 - ・International Council for Industrial and Applied Mathematics(ICIAM)への貢献および海外の応用数理関連学会との交流，協力の推進
 - ・JSIAM 国際シンポジウムの開催に向けた準備活動
 - ・稲盛財団基金積立金の適切な運用による，国際的に活動する女性研究者の支援
11. 応用数理関連他学会との交流の推進
12. 会員・賛助会員の増強に向けたサービス向上とコミュニティーの拡大
13. 表彰
 - フェローの任命，業績賞，論文賞（和文論文誌，JJIAM，JSIAM Letters），学会誌ベストオナー賞，年会若手優秀講演賞・ポスター賞，研究部会連合発表会優秀講演賞の表彰および各種日本応用数理学会賞等の立ち上げの検討
14. 若手層・女性研究者の学会参加の促進
15. 産業界・社会との交流促進と連携強化
16. 数理科学振興の政策課題の検討
17. 一般社会への応用数理・数理科学の広報と啓蒙・教育活動
18. その他

以上

収支予算案

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人日本応用数理学会
一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取入会金	50,000	50,000	0	
正会員	50,000	50,000	0	前年度予算と同額を計上
受取会費	17,040,750	18,925,250	△ 1,884,500	2023年1月20日現在の会員数を根拠に計上
正会員	14,352,750	16,131,250	△ 1,778,500	
正会員	13,475,000	15,187,500	△ 1,712,500	当年度会費：12,500円×(1170名×90%) 過年度会費：12,500円×25名見込
シニア会員	869,000	935,000	△ 66,000	当年度会費：11,000円×(88名×90%)
SIAM会員	8,750	8,750	0	当年度会費：8,750円×(1名×100%)(30%減免対象)
学生会員	638,000	594,000	44,000	当年度会費：5,500円×(145名×80%)
賛助会員	2,050,000	2,200,000	△ 150,000	当年度会費：50,000円×(22社41口×100%)
事業収益	2,055,000	4,620,000	△ 2,565,000	
応用数理広告料	75,000	0	75,000	応用数理33巻1-4号分(22年度実績を参考に計上)
応用数理定期購読料	240,000	240,000	0	応用数理33巻1-4号分(715円×84件見込×4号分)
論文誌掲載料	480,000	480,000	0	論文誌33巻2-4号・34巻1号分(40,000円×3件見込×4号分)
年会収益	0	2,500,000	△ 2,500,000	ICIAM2023開催のため計上なし
セミナー収益	460,000	600,000	△ 140,000	ものづくり研究会第10期技術セミナー(過年度実績をもとに計上)
研究部会収益	500,000	500,000	0	第20回研究部会連合発表会
著作権料	300,000	300,000	0	学術著作権協会、近代科学社、科学技術振興機構
雑収益	1,000	1,000	0	普通預金利息、定期預金利息など
経常収益計	19,146,750	23,596,250	△ 4,449,500	
(2) 経常費用				
事業費	9,470,000	10,025,000	△ 555,000	
応用数理刊行事業費	5,220,000	4,635,000	585,000	
委託費	2,400,000	2,300,000	100,000	応用数理33巻2-4号・34巻1号分編集業務委託経費、J-STAGE経費(国際文献社)
会議費	0	35,000	△ 35,000	
印刷製本費	2,300,000	2,300,000	0	応用数理33巻2-4号・34巻1号分(1700部54頁×4号分)(国際文献社)
諸謝金	520,000	0	520,000	応用数理33巻2-4号・34巻1号分原稿料
論文誌刊行事業費	400,000	380,000	20,000	
委託費	400,000	360,000	40,000	論文誌33巻2-4号・34巻1号分オンライン査読システム使用料、J-STAGEアット・ロッド 作業(三秀舎)
会議費	0	20,000	△ 20,000	
JSIAM-Letters刊行事業費	1,050,000	110,000	940,000	
委託費	1,050,000	50,000	1,000,000	JSIAM-Letters編集業務委託費、J-STAGE経費(国際文献社)、J-STAGE投稿審査システム利用料
会議費	0	60,000	△ 60,000	
JSIAMOnlineMagazine刊行事業費	800,000	0	800,000	
委託費	800,000	0	800,000	JSIAM Online Magazine編集業務委託費(国際文献社)
年会事業費	0	3,100,000	△ 3,100,000	ICIAM2023開催のため計上なし
セミナー事業費	500,000	500,000	0	ものづくり研究会第10期技術セミナー、異分野・異業種研究交流会
研究部会事業費	1,500,000	1,300,000	200,000	第20回研究部会連合発表会(前年度実績見込みを参考に計上)
管理費	8,740,000	10,264,000	△ 1,524,000	
JJIAM購入費	300,000	300,000	0	JJIAM賛助頒布分購入費(Springer)
活動促進費	100,000	100,000	0	男女参画分担金、学会賞関係費用、広報関係費用等
関連団体等会費	190,000	150,000	40,000	横幹連合50,000円、理論応用力学20,000円、ICIAM会費USD800.00(円安傾向を考慮して計上)
保守費	1,300,000	1,000,000	300,000	GoogleCloudService使用料19,000円×12カ月、AmazonWebService使用料75,000円×12カ月、ホスティング サービス料4,400円×12カ月(円安傾向を考慮して計上)
事務委託費	6,100,000	7,964,000	△ 1,864,000	
委託費	4,220,000	4,220,000	0	4-3月分業務委託費(見込)4,000,000円、選挙関連委託費(見積)220,000円(国際文献社)
HP関係費	600,000	2,464,000	△ 1,864,000	WEB保守費49,500円×12カ月(想隆社)
印刷製本費	200,000	200,000	0	4-3月分封筒代100,000円、コピー代実費50,000円、選挙関連印刷費50,000円(国際文献社)
通信運搬費	1,030,000	1,030,000	0	4-3月分発送手数料・送料400,000円、学会誌4号分発送手数料・送料480,000円、選挙関連発送手数料・送料150,000円(国際文献社)
消耗品費	50,000	50,000	0	4-3月分賞状用紙代等(国際文献社)
会議費	250,000	200,000	50,000	Zoom使用料等
雑費	250,000	250,000	0	各種手数料(振込手数料・みずほファクター手数料・クレジット決済手数料等)
法人関連経費	250,000	300,000	△ 50,000	監査対応報酬(AtaGO税理士法人)110,000円、登記変更費用50,000円、都民税均等割り70,000円
経常費用計	18,210,000	20,289,000	△ 2,079,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	936,750	3,307,250	△ 2,370,500	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	936,750	3,307,250	△ 2,370,500	
2 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	936,750	3,307,250	△ 2,370,500	
一般正味財産期首残高	45,981,899	42,674,649	3,307,250	
一般正味財産期末残高	46,918,649	45,981,899	936,750	
II 正味財産期末残高	46,918,649	45,981,899	936,750	

2023年6月23日修正

収支予算案

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人日本応用数理学会
国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
国際交流事業収益	200,000,000	0	200,000,000	ICIAM2023収益(参加費16,200万円、展示800万円、開催補助3000万円(JSIAM700万円は内部取引))
雑収益	100	100	0	普通預金利息
経常収益計	200,000,100	100	200,000,000	
(2) 経常費用				
事業費	195,700,000	5,601,000	190,099,000	
国際交流事業費	195,700,000	5,601,000	190,099,000	ICIAM2023経費(参加費補助、システム構築、人件費、出版物作成等)
委託費	195,000,000	5,600,000	189,400,000	
表彰関係費	700,000	0	700,000	ICIAM Industrial Prize2023(\$5,000-)
雑費	0	1,000	△ 1,000	
経常費用計	195,700,000	5,601,000	190,099,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	4,300,100	△ 5,600,900	9,901,000	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	4,300,100	△ 5,600,900	9,901,000	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	4,300,100	△ 5,600,900	9,901,000	
一般正味財産期首残高	6,253,933	11,854,833	△ 5,600,900	
一般正味財産期末残高	10,554,033	6,253,933	4,300,100	
II 正味財産期末残高	10,554,033	6,253,933	4,300,100	

2023年6月23日修正

収支予算案

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人日本応用数理学会
稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
雑収益	300	300	0	定期預金利息
経常収益計	300	300	0	
(2) 経常費用				
事業費	500,000	0	500,000	
稲盛財団基金事業費	500,000	0	500,000	
支払寄付金	500,000	0	500,000	ICIAM Olga Tausky-Todd Lecture支援
経常費用計	500,000	0	500,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 499,700	300	△ 500,000	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	△ 499,700	300	△ 500,000	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 499,700	300	△ 500,000	
一般正味財産期首残高	3,000,862	3,000,562	300	
一般正味財産期末残高	2,501,162	3,000,862	△ 499,700	
II 正味財産期末残高	2,501,162	3,000,862	△ 499,700	

一般社団法人 日本応用数理学会

2023 年度 定時社員総会

参考資料

目次

役員の退任と留任	1
選挙結果	2
学会誌編集委員会	4
論文誌編集委員会	6
JSIAM Letters 編集委員会	7
国際活動委員会	8
表彰委員会	9
ネットワーク委員会	12
出版委員会	13
総務委員会	15
規程類の整備について	16

2023（令和 5）年 6 月 23 日

一般社団法人 日本応用数理学会

一般社団法人 日本応用数学会
退任・留任する役員の名簿

一般社団法人 日本応用数学会では、理事・監事の任期が2年と定められております。

2023 年度定時社員総会終了時に退任または辞任する理事・監事（重任予定者を含む）は以下の通りです。

理事 11 名

秋葉 博（会長）	張 紹良（副会長）
石渡 哲哉	岡澤 健介
小磯 深幸	曾我部 知広
直野 健	丸野 健一
村重 淳	李 聖林
渡部 善隆	

監事 1 名

内山 成憲

また、2022 年度から 2023 年度にかけて留任する理事・監事は以下の通りです。

理事 9 名

井手 貴範（副会長）	吉田 真紀（副会長）
大江 貴司	荻田 武史
梶原 健司	齊藤 宣一
関根 晃太	長井 秀友
松本 純一	

監事 1 名

矢野 良輔

以上

2023年3月27日

一般社団法人 日本応用数理学会 選挙管理委員会
石村直之, 多田野寛人, 岡山友昭

一般社団法人 日本応用数理学会 2023年度 代表会員選挙ならびに役員候補者選挙 選挙結果

投票総数と投票の成立

2023年3月22日に開票を行い、正会員数 1259 名（2022年11月末時点）に対し期日（2023年3月15日）までの投票総数が 409 票であり、そのすべてが有効投票の要件を満たしていることを確認しました。有効投票数が全体の6分の1以上であり、選挙規定第13条に基づき投票が成立することを宣言いたします。

投票結果

下記に示す投票結果にしたがい、今回の立候補者全員が信任され、代表会員 89 名が当選しました。総会では、今回の選挙結果を尊重して、この代表会員による役員選挙が行われ、役員が決定されます。

会長（改選数 1名, 候補者数 1名, 投票数 409票）

信任得票数 406票, 不信任得票数 3票の候補者	1名
---------------------------	----

副会長（改選数 1名, 候補者数 1名, 投票数 409票）

信任得票数 405票, 不信任得票数 4票の候補者	1名
---------------------------	----

監事（改選数 1名, 候補者数 1名, 投票数 409票）

信任得票数 406票, 不信任得票数 3票の候補者	1名
---------------------------	----

理事（改選数 11名, 候補者数 11名, 投票数 409票）

信任得票数 405票, 不信任得票数 4票の候補者	5名
信任得票数 404票, 不信任得票数 5票の候補者	4名
信任得票数 403票, 不信任得票数 6票の候補者	2名

代表会員（改選数 90名, 候補者数 89名, 投票数 409票）

信任得票数 406票, 不信任得票数 3票の候補者	6名
信任得票数 405票, 不信任得票数 4票の候補者	33名
信任得票数 404票, 不信任得票数 5票の候補者	43名
信任得票数 403票, 不信任得票数 6票の候補者	6名
信任得票数 402票, 不信任得票数 7票の候補者	1名

当選者一覧

[1] 役員候補者

会長候補者 1名（改選数 1）

速水 謙 （国立情報学研究所）

副会長候補者 1名（改選数 1）

関川 浩 （東京理科大学）

監事候補者 1名（改選数 1）

石渡 恵美子 （東京理科大学）

理事候補者 11名（改選数 11）

石田 祥子 （明治大学）

磯島 伸 （法政大学）

倉橋 貴彦 （長岡技術科学大学）

関川 浩 （東京理科大学）

曾我部 知広 （名古屋大学）

尊田 嘉之 （AGC（株））

奈良 高明 （東京大学）

野津 裕史 （金沢大学）

速水 謙 （国立情報学研究所）

宮路 智行 （京都大学）

山本 有作 （電気通信大学）

[2] 代表会員 89 名

相島 健助	(法政大学)	相原 研輔	(東京都市大学)
秋葉 博	(東京大学/電力中央研究所)	石川 貴弘	(三菱電機(株))
石田 祥子 ‡	(明治大学)	石渡 恵美子 ‡	(東京理科大学)
石渡 哲哉	(芝浦工業大学)	礪島 伸 ‡	(法政大学)
井手 貴範 †	((株) アイシン)	伊藤 弘道	(東京理科大学)
今井 桂子	(中央大学)	今関 修	(鹿島建設(株))
今村 俊幸	(理化学研究所)	内山 成憲	(東京都立大学)
梅田 裕平	(富士通(株))	大石 進一	(早稲田大学)
大江 貴司 †	(岡山理科大学)	大田 佳宏	(Arithmer(株))
大林 一平	(岡山大学)	岡澤 健介	(日鉄ソリューションズ(株))
岡野 大	(愛媛大学)	岡本 久	(学習院大学)
荻田 武史 †	(東京女子大学)	奥田 昌宏	(キャノン(株))
尾崎 克久	(芝浦工業大学)	梶原 健司 †	(九州大学)
片岡 一郎	((株) 日立製作所)	神山 雅子	((株) ブリヂストン)
川原 仁志	(伊藤忠テクノソリューションズ(株))	木下 保	(筑波大学)
木村 巖	(富山大学)	久保田 光一	(中央大学)
倉橋 貴彦 ‡	(長岡技術科学大学)	劔持 智哉	(名古屋大学)
小磯 深幸	(九州大学)	國府 寛司	(京都大学)
小林 佑輔	(京都大学)	齊藤 宣一 †	(東京大学)
榊原 航也	(岡山理科大学)	坂上 貴之	(京都大学)
櫻井 鉄也	(筑波大学)	櫻田 英樹	(日本電信電話(株))
佐古 和恵	(早稲田大学)	佐藤 一誠	(東京大学)
新谷 浩平	(トヨタ自動車(株))	鈴木 大慈	(東京大学)
須田 礼仁	(東京大学)	関川 浩 ‡	(東京理科大学)
関根 晃太 †	(千葉工業大学)	関根 順	(大阪大学)
曾我部 知広 ‡	(名古屋大学)	尊田 嘉之 ‡	(AGC(株))
高田 章	(ロンドン大学)	竹内 謙善	(香川大学)
田中 健一郎	(東京大学)	張 紹良	(名古屋大学)
土谷 隆	(政策研究大学院大学)	道工 勇	(埼玉大学)
直野 健	((株) 日立製作所)	長井 秀友 †	(東海大学)
中川 訓範	(兵庫県立大学)	中口 悦史	(大阪大学)
奈良 高明 ‡	(東京大学)	成島 康史	(慶應義塾大学)
野津 裕史 ‡	(金沢大学)	野邊 厚	(早稲田大学)
速水 謙 ‡	(国立情報学研究所)	深谷 猛	(北海道大学)
堀之内 成明	((株) 豊田中央研究所)	松尾 宇泰	(東京大学)
松本 純一 †	((国研) 産業技術総合研究所)	丸野 健一	(早稲田大学)
水野 将司	(日本大学)	三谷 純	(筑波大学)
宮路 智行 ‡	(京都大学)	村重 淳	(茨城大学)
森山 園子	(日本大学)	谷口 隆晴	(神戸大学)
矢野 良輔 †	(東京海上ディーアール(株))	山口 明宏	(福岡工業大学)
山田 知典	(東京大学)	山中 脩也	(明星大学)
山本 野人	(電気通信大学)	山本 有作 ‡	(電気通信大学)
横張 孝志	((株) 日立製作所)	吉田 真紀 †	((国研) 情報通信研究機構)
李 聖林	(京都大学)	渡邊 勇	(一般財団法人 電力中央研究所)
渡部 善隆	(九州大学)		

† ‡ 2023年度役員（† 非改選役員10名, ‡ 改選役員候補12名）としての代表会員立候補者

学会誌編集委員会 2022(令和 4)年度 活動報告

編集委員長 村重 淳

1. 概要

学会誌「応用数理」(国際文献社発行) および JSIAM Online Magazine (JOM) の編集を行った。

委員長 村重 淳(茨城大学)

副委員長 秋山 正和(富山大学)

主査【巻頭言・フォーラム】 剣持 智哉(名古屋大学)

【論文・特集・チュートリアル】 榊原 航也(岡山理科大学)

【インダストリアルマテリアルズ】 水野 将司(日本大学)

【ラボラトリーズ・研究部会だより】 佐々木 英一(秋田大学)

【学会合報告・書評】 中井 拳吾(東京海洋大学)

【目次・電子データ】 相島 健助(法政大学)

【システム担当】 小林 領(帝京平成大学)

2. 発刊実績

2022(令和 4)年度の発刊および活動実績は以下の通りである。

(1) 学会誌「応用数理」

- ・第 32 巻 2 号(6 月), 第 32 巻 3 号(9 月), 第 32 巻 4 号(12 月), 第 33 巻 1 号(3 月), を発行した。
- ・フォーラム「応用数理の遊歩道」として, 今井 桂子(第 32 巻), 山田 道夫(第 33 巻)の連載を行なった。
- ・チュートリアルとして, 「可解カオスの数理と応用」梅野 健(第 32 巻), 「Sinc 数値計算法序論」田中 健一郎・岡山 友昭(第 33 巻)の連載を行なった。

(2) ウェブ学会誌「JSIAM Online Magazine (JOM)」

- ・ラボラトリーズに 5 本, 学会合報告に 12 本, 研究部会だよりに 4 本, 書評に 3 本, 学会ノート 1 本の新規記事を公開した。

3. その他

- ・定期的に編集委員会が行われており, 2022 年度は第 262 回から第 269 回まで 8 回開催された。新型コロナウイルス感染症のため, すべて Web 会議システム Zoom による開催された。

- ・ 32 巻 1 号から出版社が岩波書店から国際文献社に変更となった。それにともない、各委員の負担ができるだけ軽くなるように、出版体制を見直して整理した。
- ・ 33 巻 1 号から、原稿料（論文、インダストリアルマテリアルズ、フォーラム、チュートリアル、JOM）の支払いを開始した。

論文誌編集委員会 2022(令和 4)年度 活動報告

編集委員長・担当理事 荻田武史

1. 概要

日本応用数学会論文誌（以下、論文誌）は、原著論文（理論、応用、実用、ノート）およびサーベイ論文を要する和文の論文誌である。応用数理全般にわたる各分野からの投稿を奨励し、厳正な査読プロセスを経た論文が刊行される。1991 年 3 月に第 1 巻 1 号を発刊以来、毎年 1 巻 4 号を発刊しており、2022 年 3 月で第 32 巻 1 号となる。第 25 巻までは冊子体で発行され、第 26 巻からは J-Stage 上の電子ジャーナルとなった。また第 25 巻までのバックナンバーもすべて J-Stage 上に移行が完了している。

2. 発刊実績

令和 4(2022)年度に第 32 巻 2,3,4 号および 33 巻 1 号を発刊した。各部門の論文数の内訳は以下のとおりである。

全 7 編：理論 4 編，応用 0 編，実用 1 編，ノート 2 編，サーベイ 0 編

掲載論文数の安定化を図るため、研究部会の特集等を継続的に組むなどの対策が必要である。

3. その他

令和 4 年度論文賞は、理論・応用部門から 1 編ずつ計 2 編が選ばれた。残念ながら（特集以外の一般の）投稿が伸び悩む傾向は続いており、引き続き研究部会への依頼に基づく特集号の編成を検討する。また、サーベイ論文の拡充のため、編集委員会からの依頼論文について掲載料を免除する新規定を理事会にご認可頂いている。しかしながら、今日における日本語論文誌の位置づけ自体を含めて、根本的な戦略の練り直しが必要であると思われる。

論文誌編集委員会は、編集システムおよび掲載システムの全電子化に伴い、対面委員会を廃止し、必要に応じて電子的に委員会を開く格好をとっている。これにより、関東近郊に限られず全国広いエリアから編集委員を柔軟に採用できるメリットが得られ、その帰結として編集委員会全体として従前よりも適切に広い応用数学分野をカバーできている。他方で、論文誌の方向性など根本的なことについて議論する場は（電子的なものを除いて）なくなっているため、今後、社会情勢を考慮しつつ、年会時の対面委員会開催などを検討していく可能性がある。

JSIAM Letters 編集委員会 2022(令和 4) 年度 活動報告

編集委員長 渡部 善隆 (九州大学)

1. 概要

JSIAM Letters は 2009 年に創刊された日本応用数理学会の英文電子ジャーナルである。科学技術振興機構 (JST) が運営する科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsiaml> に公開されている。編集委員会は、(引継目的の在籍者を含む) 編集委員長 (1 名), 副編集委員長 (1 名), 幹事編集委員 (7 名), 英文担当 (2 名) および研究部会から推薦された 57 名の編集委員で構成されている (2023 年 3 月現在)。

英文 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 原稿で A4 版 2 段組み 4 ページ以内を原則とする。年会, 研究部会連合発表会および研究部会主催・共催の研究集会で講演されたことを投稿の条件とする。著者の少なくとも 1 名が日本応用数理学会の会員であれば掲載料 (投稿料) は無料, そうでない場合は 20,000 円を求める。1 ヶ月以内に査読, 6 週間以内に採否を通知することを原則としている。

2015 年度から論文賞 (JSIAM Letters 部門) を設け, 各年度 1~3 編の論文を選出している。

2. 発刊実績

3 月の研究部会連絡会と 9 月の年会において開催される編集委員会に合わせて投稿数と査読結果を集計している。近年の集計結果は次の表のとおりである (2023 年 2 月末現在)。

期間	投稿数	採録数	不採録数	査読中	査読日数
2020.9 – 2021.8	23	22	1	0	24.6
2021.9 – 2022.8	40	38	1	1	32.2
2022.9 – 2023.2	16	13	0	3	26.1

なお、近年 5 年間の掲載年別の Volume における掲載論文数は次のとおりである。

Vol.11 20 編 80 ページ

Vol.12 19 編 76 ページ

Vol.13 23 編 88 ページ

Vol.14 39 編 154 ページ

Vol.15 7 編 28 ページ (2023/3/26 現在; 刊行中)

以上.

国際活動委員会 令和4年度 活動報告

委員長 梶原 健司

1. 概要

国際活動委員会は、日本応用数理学会の国際的な活動に関する様々な事業を行うための企画立案や提案、実施に向けた準備とその実績の評価や改善のための検討などを行い、当学会の国際的な活動を促進することを目的とする。

2. 令和4年度の主な取組とその成果

今年度も、新型コロナウイルス感染症流行の影響により世界的に国際活動は大きく制約され、残念ながら、例年に比べて活発ではなかった。

(A) 海外のSIAM関連学会との連携

オーストラリア数学会とは相互協定を締結しており、その部会である Australia-New Zealand Industrial and Applied Mathematics (ANZIAM) の年会には例年 JSIAM 会員が参加している。2023 年の年会は 2 月 5 日～2 月 9 日にケアンズ(クイーンズランド、オーストラリア)で行われた。

(B) ICIAM 2023 東京開催準備

ICIAM 2023 組織委員会（大石進一大会委員長、岡本久副委員長）を中心に開催準備が行われている。

3. ICIAM Board Meeting 2022 の報告

令和4年9月3日に ICIAM Board Meeting 2022 が英国グラスゴーの Strathclyde 大学での対面と Zoom のハイブリッドで開催された。対面で開催されるのは 2019 年以来であり、JSIAM からは梶原と丸野が対面で参加した。その議事から重要事項 4 件を報告する。

1) ICIAM2023の準備状況の報告

大石進一大会委員長から ICIAM2023 の準備状況の報告があった。

2) Secretaryについて

Secretary の選挙がなされた。候補者の紹介の後、候補者に対して Q&A セッションが行われた。投票の結果、Suzanne Shontz (SIAM) が選ばれた。

3) Officers-at-LargeのBylawsの改正

Officers-at-Large に関する Bylaws の改正が提案され承認された。現在、Officer-at-Large は最大 2 名であるが、最大 6 名への変更となる。任期 4 年、1 度だけ再選可能。Years mod 4 = 1 or 3 で Election を行う。1 回の Election で最大 3 名を選ぶ。次回の Board Meeting で新たに 2 名を選ぶ。

3) ICIAM Dues (加盟費) について

ICIAM Dues は、現在の経済状況を考慮し据え置きとなり、JSIAM を含む large full society は \$800 のままとなった。

4) 2023 年の ICIAM Board Meeting は 2023 年 8 月 26 日に早稲田大学で開催し、その前に ICIAM2023 が開催される。

表彰委員会 2022(令和 4)年度 活動報告

表彰委員長 張 紹良

1. 概要

日本応用数理学会には以下の内部表彰があります。

- (1) 日本応用数理学会論文賞(日本応用数理学会論文誌、JJIAM、および JSIAM Letters)
- (2) ベストオーサー賞(学会誌「応用数理」)
- (3) 年会若手優秀講演賞(当該年度 4 月 1 日現在で 35 歳未満の講演者が対象)
- (4) 年会優秀ポスター賞(当該年度 4 月 1 日現在で 35 歳未満の講演者が対象)
- (5) 研究部会連合発表会優秀講演賞
- (6) 日本応用数理学会業績賞

本年度、表彰委員会は規程に従って上記各賞の選考委員を理事会に提案し、選考委員会による選考結果を理事会に上程致しました。上程した候補はすべて理事会で認められ、受賞の運びとなりました。これらに加え、例年通り、理事会を通じて外部賞への会員の推薦も行いました。

2. 表彰実績

(1) 日本応用数理学会論文賞

選考委員会の推薦に基づき、2019 年から 2021 年の『日本応用数理学会論文誌』(第 29 巻 1 号～第 31 巻 4 号) および JJIAM(Volume 36 issue 1～Volume 38 issue 3)に発表された論文の中から計 3 編を論文賞候補に選定しました。また、2019 年から 2021 年の JSIAM Letters (Volume 11～Volume 13) に発表された論文の中から 2 編を論文賞候補に選定しました。

① 理論部門

緒方 秀教「二重周期的ポテンシャル問題に対する代用電荷法」(日本応用数理学会論文誌 31 巻 1 号(2021), pp.1-19)

② 応用部門

東出 卓朗, 浅井 謙輔, 後藤 順哉, 藤田 岳彦「初到達時間を用いたペアポートフォリオ最適化問題の新定式化」(日本応用数理学会論文誌 30 巻 3 号(2020), pp.194-225)

③ JJIAM 部門

Kohei Higashi, Junkichi Satsuma & Tetsuji Tokihiro, “Rule 184 fuzzy cellular automaton as a mathematical model for traffic flow” (Japan J. Indust. Appl. Math. Vol. 38 (2021), pp. 579-609)

④ JSIAM Letters 部門

Yuki Chiba, Tomoyuki Miyaji, Toshiyuki Ogawa, “Computing Morse

decomposition of ODEs via Runge-Kutta method” (JSIAM Letters, Vol. 13 (2021), pp.40–43)

Motoki Oka, “On the uniqueness of stable anisotropic capillary hypersurfaces that contact the edge of a wedge” (JSIAM Letters, Vol. 13 (2021), pp.76–79)

(2) ベストオーサー賞

選考委員会からの推薦に基づき、2019 年から 2021 年の学会誌『応用数理』（第 30 巻 1 号～第 32 巻 4 号）に発表された論文、インダストリアルマテリアルズの中からベストオーサー賞 2 編を理事会に上程しました。

① 論文部門

齊藤 宣一「数値解析における反例」(応用数理 31 巻 3 号(2021), pp.15-22)

② インダストリアルマテリアルズ部門

林 伸治「ガソリンエンジンにおけるノッキング現象の数理」(応用数理 31 巻 2 号(2021), pp.23-27)

(3) 年会若手優秀講演賞

各セッションからの推薦に基づき、以下の 5 件を年会若手優秀講演賞候補に選定しました。

① 今田 凜輝（東京大学）

「折紙/切紙テッセレーションに現れるソリトンと力学系による解析」

② 兼子 晃寛（大阪大学）

「連続時間 Markov 連鎖後退確率微分方程式に関するマルチステージ Euler-丸山型解法について」

③ 佐藤 良亮（東京大学）

「On Efficiency of Polyhedral Clinching Auctions」

④ 寺尾 剛史（理化学研究所）

「固有値分解に対する 2 ステップ型反復改良法」

⑤ 西田 優樹（東京理科大学）

「優対角な min-plus 行列の上三角化とその交通流モデルへの応用」

(4) 年会優秀ポスター賞

年会実行委員会が定める審査員の評価に基づき、年会実行委員会が以下の 2 件を選考しました。

① 最優秀ポスター賞

前田 楓太（サレジオ工業高等専門学校専攻科、発表者）、須志田 隆道（サレジオ工業高等専門学校情報工学科）

「フェーズフィールド法による三次元細胞運動モデルと集団回転運動の数値シミュレーション」

② 優秀ポスター賞

村田 悠（早稲田大学基幹理工学研究科数学応用数理専攻、発表者）、早水 桃子（早稲田大学）

「横断歩道における歩行者対向流の組合せ論的考察」

(5) 研究部会連合発表会優秀講演賞

各セッションからの推薦に基づき、以下の3件を研究部会連合発表会優秀講演賞候補に選定しました。

① 相原 研輔（東京都市大学）

「ブロック Lanczos 型反復法の精度改善に向けた相互作用型残差スムージング」

② 大城 泰平（東京大学）

「分数線形マトロイドパリティに対する非可換階数を用いた代数的アルゴリズム」

③ 米倉 晴紀（大阪大学）

「Multi-agent model と phase-field モデルによる血管新生シミュレーション」

(6) 日本応用数理学会業績賞

会員から推薦のあった業績から以下の1件を候補として選定しました。

奥田 洋司（東京大学教授）

「並列 FEM 構造解析プログラム FrontISTR の開発・公開・産業応用」

3. 外部推薦

2022 年度は、2 件（現象数理学三村賞，現象数理学三村賞奨励賞）の外部推薦を行いました。

ネットワーク委員会 2022(令和 4)年度 活動報告

委員長 関根晃太

1. 概要

ネットワーク委員会は、Web やメールなどの当学会におけるネットワーク関連の実務を担当、ないしは支援することにより、当学会の活動をより円滑にすることを目的とする。

2. 発刊実績

ネットワーク委員会の主たる業務は以下のものである。

- (a) 学会員向け「日本応用数理学会 ML ダイジェスト」の編集（週 1 回の頻度）。
- (b) 理事会等、学会運営用各種メーリングリストの管理（約 70 程度）。
- (c) Web(研究部会)・メール用サーバの維持管理と支援（Web サーバは Amazon Web Service のクラウドサービスを、メールサーバは Google Workspace(旧 G Suite) を利用している）。
- (d) 学会誌「応用数理」及び JSIAM Online Magazine(JOM)の記事管理システムの維持管理(2022 年より国際文献社に記事管理システムを移管中)
- (e) ネットワークドメイン jsiam.org および iciam2023.org の維持管理（DNS サーバは Dotster および Amazon Web Service のクラウドサービスを利用している）。
- (f) ICIAM の Web サーバの管理。
- (g) ICIAM 2023 の Web サーバ・査読システムの管理。
- (h) ICIAM 2023 のメーリングリストの管理（約 10 程度）。

3. その他

上記の主たる業務を恒常的に遂行している。なお、(d) 学会誌「応用数理」及び JSIAM Online Magazine(JOM)の記事管理システムについては、国際文献社への委託に伴い、2022 年度に記事管理システムへの新規投稿は終了した。そのため、現段階で審議中の記事、学会誌「応用数理」編集委員会の出席管理、および、過去の議事録などの収集が終わり次第、記事管理システムの維持管理を停止する。

4. 2022 (令和 4) 年度ネットワーク委員会構成メンバー

委員長 関根晃太（千葉工業大学）

委員 降旗大介（大阪大学）

萩田武史（東京女子大学）

山中脩也（明星大学）

南畑淳史（関西国際大学）

小林 領（帝京平成大学）

出版委員会 2022(令和 4)年度 活動報告

出版委員（担当理事 直野健）

1. 概要

出版委員会では、シリーズ応用数理を 7 刊まで発刊しています。

2. 発刊実績

2022（令和 4）年度の発刊実績は、特にございません。

3. 発刊準備

第 8 刊に向け、数論アルゴリズム、応用カオスについて、検討を開始しました。

4. 過去の実績

シリーズ応用数理のこれまでの発行実績は以下のとおりです。

(<https://www.kyoritsu-pub.co.jp/series/24/>)

シリーズ応用数理 1 巻 数理的技法による情報セキュリティ

日本応用数理学会 監修・萩谷 昌己・塚田 恭章編ページ

発行年月：2010 年 7 月

シリーズ応用数理 2 巻 公開鍵暗号の数理

日本応用数理学会 監修・森山 大輔・西巻 陵・岡本 龍明著

発行年月：2011 年 3 月

シリーズ応用数理 3 巻 折紙の数理とその応用

日本応用数理学会 監修・野島 武敏・萩原 一郎編

発行年月：2012 年 9 月

シリーズ応用数理 4 巻 有限要素法で学ぶ現象と数理—FreeFem++ 数理思考プログラミング—

日本応用数理学会 監修・大塚 厚二・高石 武史著

発行年月：2014 年 2 月

シリーズ応用数理 5 巻 応用のためのウェーブレット

日本応用数理学会 監修・山田 道夫・萬代 武史・芦野 隆一著

発行年月：2016 年 1 月

シリーズ応用数理 6 巻 数値線形代数の数理と HPC

日本応用数理学会 監修・櫻井 鉄也・松尾 宇泰・片桐 孝洋編

発行年月：2018 年 8 月

シリーズ応用数理 7 巻 選挙・投票・公共選択の数理

日本応用数理学会 監修・大山達雄 編

発行年月：2022 年 3 月

以上

総務委員会 2022（令和4）年度 活動報告

委員長 齊藤 宣一

1. 概要

総務委員会が、学会の事業のうち、総務に関わるものを担当し、学会事務局を統括するために、2021年度に新たに設置された。

2. 委員会名簿（2022年11月1日～2023年9月30日）

委員長（2年目） 齊藤宣一（東京大学 教授） 理事

副委員長（2年目） 曾我部知広（名古屋大学 准教授） 理事

会計係

委員（2年目） 村川秀樹（龍谷大学 准教授）

委員（1年目） 田中吉太郎（公立はこだて未来大学 准教授）

広報係

委員（2年目） 相原研輔（東京都市大学 准教授）

委員（2年目） 内海晋弥（学習院大学 助教）

委員（2年目） 杉谷宜紀（城西大学 助教）

委員（1年目） 岩崎悟（大阪大学 助教）

委員（1年目） 陰山真矢（関西学院大学 助教）

委員（1年目） 川越大輔（京都大学 助教）

渉外係

委員（2年目） 佐々木多希子（武蔵野大学 講師）

委員（1年目） 小松瑞果（神戸大学 助教）

3. 活動

以下の活動を行なった。

会計係

学会事務局からの支出伺いを管理し、担当理事の指示のもとで、支出の可否を学会事務局に伝える。

広報係

学会ウェブ・学会 twitter のコンテンツの管理を行う。

渉外係

学会への協賛・協賛・後援等に対する対応を、担当理事の指示のもとで、事務局に指示する。

外部団体からの連絡等を、学会の担当者に引き継ぐ。

以上

規程類の整備・改正の記録

理事（総務担当）齊藤 宣一

2022（令和 4）年度理事会において以下の規程類の新規制定・整備・改正等を行った。

- 表彰程 2022 年 5 月 20 日改正
年会若手優秀講演賞、連合発表会優秀講演賞および年会優秀ポスター賞の選考における、選考委員長の選出方法を改正した。
- 一般規定 2022 年 7 月 22 日改正
第 9 条（研究部会）に「連続最適化」を加えた。
- 会費細則 2022 年 7 月 22 日改正
法人賛助会員の特典（第 7 条）として、学会誌と年会プログラムへの広告の掲載を追加した。
- 代表会員および役員定数 2022 年 7 月 22 日改正
代表会員の定数を 102 名から 90 名に変更した。
- 学会誌編集委員会規程 2022 年 11 月 25 日改正
「岩波書店の委託を受けて」という文言を削除した。
- ICIAM2023 に関わる契約・購入についての申し合わせ 2023 年 1 月 27 日制定

以上